

令和6年度

鳴門市第一小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現
- 学校と家庭が連携し、課題に対して粘り強く取り組む児童の育成

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 矢野由利子
- 委員 校長 尾崎徳彦, 教頭 木村展子, 教務主任 河野泰宏, 特別支援 野口彰代, 林真優(1年), 田中律子(2年), 河野泰宏(3年), 数尾大樹(4年), 辻岡尚道(5年), 金澤健司(6年)

校長

尾崎 徳彦 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や研究授業、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ●語彙数が少なく、正確に文章を読み書きすることに課題がある。 ●学力の二極化が見られるところもある。	・学年で学習する漢字を確実に習得する。それらを活用することができる。 ・読書習慣を身につけ語彙数を増やし、正確に文章の読み書きをすることができる。 ・基礎的・基本的学習の定着	・単元テスト数値達成目標 低学年9割以上の児童 80%以上、中学年8割以上の児童 60%以上、高学年7割以上の児童 80%以上を目指す。 ・既習内容を繰り返し学習する。定期的に小テストを行い、学習の定着を図る。タブレットや辞書を使って調べる時間を作る。 ・文章を書く機会を増やす。	・学習した漢字を繰り返し、継続的に取り組めるような、学習プリントの工夫をする。 ・学力が特に低い児童には、個別指導だけでなく、家庭とも連携し学習定着を図る。 ・週1回の読書タイムをとる。日記の活動を増やす。	・意欲を持って学習に取り組み、単元テストの数値目標の達成した学年はあったが、未達成の学年もあった。 ・履修内容の定着には、個々に苦手な部分の補充など手立てが必要だと感じた。 ・楽しんで読書をする児童が多かったが、じっくり読んでいなかったり、語彙力の獲得につなげていない。	・語彙力・文章構成力をつける為に、継続的に視写の活動を取り入れる。 ・基本的な学力向上を目指し、朝学習を曜日ごとに固定し、算数・国語の学習時間を確実に確保する。 ・基礎的・基本的な読み書き・計算の学習に取り組む。算数はAIDリルの活用。 ・児童に合ったプリントの作成

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを積極的に発言したり、話し合い考えを深める学習が好きな児童が多い。 ●友達の意見と自分の意見や考えを比較したり関連付けたりすることに課題がある。	・これまでの学習を手がかりにしながら、自分の考えを書くことができる。 ・進んで自分の考えや根拠を述べたり、友達の発言と比較したりすることによって、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	・ペア、グループ、全体での話し合いなど適切な方法で感想や他者の考えを共有する場面を取り入れる。 ・根拠を述べたり多様な意見を引き出したりできるように工夫する。 ・電子黒板やタブレット端末を活用して、友達の考えを明確化し、比較・関連付けすることで「協働的な学び」を実現する。	・意見を伝えるモデルを提示し、意見の比較ができるようにする。 ・ディベートのような話し合い活動を活性化し、意見を述べることを楽しめるように工夫する。 ・メタモジを活用し、児童の考えを可視化し、より明確化した上で共有する。	・自分の意見を書く時に、キーワードを用いて書くように促したことで、自分の意見をまとめられる児童が増えた。 ・話し合い活動の中で、意見を伝え合うことはできたが、互いの意見の深まりまでには至らなかった。書いた意見や考えを、様々な形で「表現すること」が次年度への課題。	・タブレットでの、思考ツールを活用する。文・絵・数字を用いて、考えをまとめたり自分の考えを深められるよう、指導の工夫を続ける。 ・タブレット学習で良かった事例を共有する。 ・小グループでの話し合い活動継続。話し合うためのテーマを具体的に作る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、友達と協力しながら前向きに学習に取り組める児童が増えた。 ●粘り強く取り組むことに課題がある。	・自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・最後まで粘り強く課題に取り組むことができる。 ・宿題や自主学習に取り組む、家庭学習の習慣を身につけることができる。	・学校評価での家庭学習の習慣化。 →学年だよりや懇談等で継続的に啓発を続ける。生活チェックカードの利用。 ・授業の最後の振り返りの時間を確保し、振り返りの視点を明示し、方法(文章記述・記号による評価・話し合い)を充実させる。 ・PBSを継続的に取り入れる。	・生活チェックカードの定期的利用をする。 ・振り返るポイントをめあてに沿ったものに絞る。記号による評価から、徐々に記述・観点別へと広げる。	・生活科チェックカードを通じて、家庭に呼びかけるきっかけとなった。家庭学習の習慣かや生活習慣の見直しを保護者と共通理解できた。家庭学習量を確保することが課題。 ・記号による振り返りやポイントをしばっての振り返りはできるようになった。	・奇数月には、生活科チェックカードの継続と家庭訪問や個人懇談での、家庭学習の促進を継続する。 ・PBSを取り入れる。 ・年度初めに、振り返りの方法を確認する。教師側のポイントに絞った振り返りやめあての工夫(授業力改善)

令和6年度 学力向上ロードマップ



